眼科摘要　三

富士川文庫
496.2
Ga-2
3
F 3
カ-84

眼科摘要巻三

荷蘭　朋百般默兒垤兒法爾篤抄
佐藤舜海中閲
佐倉　倉次元意譯

第三次

眼器焮衝病

此病ハ血管ト神經トノ際ニ起ル機能亢進スルニ由テ發シ而メ赤色腫脹疼痛增温機能障碍ヲ及ヒ局處ノ血液混合變革ト成形物ノ分泌ニ據テ顯ルヽモノナリ

496.2
Ga-2
3
No.883
慶應義塾大学医学情報センター 昭和47年7月14日
富士川文庫
3169

顯症解剖説

微糸血管挾隘シテ其内ノ血行増進ス此症ハ其色灰白ニシテ速ニ經過ス其後チ微糸血管膨大シテ血行怠慢トナリ以テ組織ノ赤色ヲ顯ス凡ソ微糸血管弥膨大シ血球溜滞スルヿ益多ケレハ赤色弥増加ス温度モ亦従テ増進ス蓋シ温度ノ増加ハ微糸血管ト其近傍ニ含蓄様ノ機能ヲ發スルニ由テ生ス其然ル所以ノ原ハ血中含ム所ノ酸素ノ多少ニ據ル此後チ更ニ一期限アリ則チ血行順序ヲ乱シ血球細管中ニ在テ前後ニ

向ヒ「スコンメレンデ」状ニ動揺ス病器血液ニ冨メハ更ニ之レニ腫脹ヲ顯ハス其腫脹ハ蓋シ一ハ血脉ノ廣大シテ其内ニ血ヲ充實スルニ由リ一ハ血水滲出スルニ由ル此後又更ニ一期限アリ血欝之レナリ則チ微糸血管血球ヲ以テ填充セラレ以テ脉壁破裂シ些少ノ溢血ヲ致ス若シ病ヒ外表ニアレハ出血ヲ致ス凡ソ血欝ニハ血水ノ滲出ヲ合併スル者ナリ據テ浮腫水腫ヲ生ス之レ血水ノ近部ニ竄透スル者ニシテ腫脹之レカタメニ増加セラル

病理症

一切ノ眼焮衝ハ。知覺亢進ス。患部及ヒ其近傍部ニ於ケルモ皆然リ。

疼痛ハ。症ニ據テノミ生スル者ナラスト雖𪜈。多ク焮衝ニ顯ルヽ者ニシテ。或ハ本發症。（患部ノ組織ニ発スル者）トナリ或ハ偶發症（所謂交感）トナリ。或ハ滲出物ノ壓迫ニ由リ。或ハ温度増進スルニ由テ生ス

此解剖。病理兩症ヨリ。又機能障碍ヲ生出ス

眼内貴要ノ部ニ。劇焮衝ヲ發スレハ。其反應ノ多メニ。全身ニ關係スル諸症ヲ継發ス。縦ヘハ微恙。發熱。腸胃症。分泌。排泄等ノ障碍ノ如シ。而メ此ノ症狀ノ輕重ハ。皆眼焮衝ノ劇易ニ應ス。或ハ時ニ羞明。痙攣。亦タ反應症トナリテ顯ハルヽコトアリ。

區別

虛實ニ分ツヘシ。實症ヲ更ニ左ニ區別ス。

甲　シノビアートレ焮衝。則純粹劇甚ノ實症焮衝ナリ

乙　ヱレチセ焮衝。則神經系統刺衝機著ク亢進スルヲ兼子。由テ疼痛モ劇甚ナル者ナリ。

原因ニ従テ之レヲ分テハ。第一。正發症。第二。交感症。又發顯症眼焮衝。特異性眼焮衝ニ分ツヘシ

真純實症眼焮衝ヲ論ス。

一切ノ感傷。眼中ヨリ刺戟スル者之レニ属ス。而メ之レヲ眼ノ全體局所ニ分ツヘシ。蓋シ尚血積編ニ於テ論スルカ如シ。

虚症焮衝ノ原因ヲ論ス。

神經ノ機能ヲ障碍シ。或ハ之レヲ沮絶シ以テ組織ノ弛緩。殊ニ血脉ノ弛緩ヲ生出セシムル。一切ノ感傷皆之レニ属ス。又血液ヲ欝蓄セシメ。其部ノ血液調匀ヲ變化セシムル。一切ノ感傷之レニ属ス。縦ヘハ神經麻痺。損傷。壓迫等ノ如シ。此ノ經過ハ一定ナラス。或ハ急速ナリ。或ハ緩慢ナリ。病際モ亦タ異ナレリ。一二日ニシテ治スル者アリ數週ヲ歴テ始テ治スル者アリ。

轉歸

一　鮮散即チ全治ニシテ。原因共ニ治スルモノナリ。此轉歸。多クハ正發眼焮衝ニ在テ。早ク適當ノ治法ヲ得ルニ由ル者ナリ。

二　血管廣大ニ凡ツ眼疾ハ。特ニ血管廣大ノ素質

ヲ有スル者ニシテ。之レカタメニ動モスレハ焮衝再發スルモノナリ。

三　焮衝部壊死　壊死ニ両性アリ。乾壊死。濕壊死トス。通例其經過急性ナリ。

甲　慢性潰瘍即チ荒敗　乙　軟化

四　滲出物ノ成形機

五　一旦已ニ凝結スル所ノ滲出物。再ヒ流動シテ尋テ吸盡ス。

六　滲出物化膿ニ轉スル者ニシテ。時アリテ眼中ニ膿腫ヲナス者アリ。乃チ全身他部ニ生スル者

ニ同シ。善膿惡膿ノ両性ヲ具フ。

七　滲出物ノ化シテ形ヲ成ス者。乃チ之レカタメニ眼中肥大ヲナシ。或ハ息肉ヲ生ス。癒合ハ蓋シ之レカタメニ繼發スル者ナリ。

豫後

焮衝特異性ニ關係ス。病性ノ輕重ハ。原因ノ性。及ヒ體格ニ從テ同シカラス。凡ソ焮衝純正ニシテ蔓延セサル者ハ。豫後愈吉トス。「エレチセ」性ハ經過緩慢ニシテ頑固ナリ。而シテ遺病ヲ生シ易シ。知覺鈍麻ノ人ハ治シ難シトス。而シテ遺病。變性病ヲ

繼發ス。惡液質ヲ合係スル者ハ。豫後ヲ論スル凡テ之レヲ以テ推スヘシ。眼内ノ外部。其内部ニ比スレハ頗ル吉トス。其他。職業。男。女。攝生等ニ關係シテ。豫後異レリトス。

治法

全身焮衝ノ療法ニ同シ。只特異疾病ト。眼中ノ部分ト。原因ニ從テ少シク之レヲ變セスンハ非ス。卒然トシテ來ル外因ニ出ル者ハ。速ニ其因ヲ去スンハアラス。其法ハ即チ左ニ掲示ス。

一　器械樣ノ異物ヲ。眼中ヨリ泄除スルニアリ。

二　眼中ヲ刺戟スル所ノ諸物。或ハ愈合スル者モ亦之レヲ除去スヘシ。

三　一切ノ外感ヲ防キ。適度ノ攝生ヲ要ス。

四　局所。防焮法。誘導法ヲ以テ始メ。次ニ體格ヲ治スル所ノ治法ニ及フヘシ。常ニ病ノ輕重。居所。病性ニ應セスハ非ス。此ニ主治トナス者ハ。血行ヲ制スルニアリ。之レニ適當スル者ハ左ノ如シ

第一。血行ヲ返流スル藥劑。寒冷。鉛水。皓礬等ノ如シ

第二、虚脉法、此法ハ局所全身ノ二法アリ、共ニ血液ヲ瀉出スルナリ、

第三、誘導法、及ヒ内薬ノ防焮法ナリ、下剤ハ、特ニ葯羅巴ノ合剤ヲ良トス、其他ハ、特異症状ニ従テ下剤ヲ行フヘシ、又発汗剤、利尿剤効アリ、外用ハ分解法、誘導法ナリ、縦ヘハ全身局所手浴脚浴水銀軟膏（阿芙蓉ヲ加フヘシ）応ス、反対刺戟膏ノ効未タ其切実ナル者ヲ見ス、外用ノ眼剤、凡テ実症焮衝、其産物ヲ生出スルノ間ハ行フヘカラス只剏期ニ於テノミ用フヘシ、又眼瞼焮衝ニハ、

始メヨリ之レヲ用ユルヲ良トス、

治療ノ第二次ハ、眼焮衝其知覚亢進スル者ハ、之レヲ抑制シ、其萎衰スル者ハ、之レヲ興奮スルニアリ、〇知覚亢進スル者ハ、麻酔薬阿芙蓉莨菪、菲沃私、老利児水ヲ、内外ニ兼用スヘシ、凡ソ血積焮衝退クノ後ハ奇効アリ、「エレチセ性」ニハ、小量ノ麻酔薬頗ル奇験ヲ奏スルヿアリ、然レ圧特異薬効アル者ナリ、之レ実験ニ據テ発明スル所ニシテ、達煉ノ者ノ施行スル所ナリ、

転帰治法

焮衝解散ニ轉シ、而メ組織ヲ著ク障碍スルノ患ヲ遺サヽル者ハ、攝生極メテ緊要トス、凡ソ疾眼ハ固ヨリ全身ニ於テモ、大氣ト光輝ニ觸ルヽヘカラス、暫ク之レヲ防禦スヘシ、一切ノ喜、怒、哀、樂ヲ避ケ、一切ノ外傷ヲ防クヘシ、強壯刺戟藥ハ、害アリテ益ナシ、而メ緑陰ノ地ニ保護スルヲ緊要トス、寒水浴、寒滴法、稀薄阿芙蓉丁幾ハ、奇效ヲ奏スルヿアリ、若シ血管弛緩廣大ヲ殘ス者ハ、慢性血積ノ治法ヲ要ス、

壞死ハ、脉管充塞ニ繼發スル一症ニシテ、焮衝ノ

轉歸ノ一症ト云フヘシ、故ニ之レニ應スル治法ヲ要スヘシ、若シ未タ焮衝壞死ノ周圍ニ殘留スル者ハ、瀉血、下劑ヲ要ス、然レ𪜈神經衰弱ヲ生スレハ、刺戟強壯ノ藥劑ヲ内服セシメ、阿芙蓉丁幾、硇銅礬ヲ外用スヘシ、共ニ水劑ヲ良トス、

潰瘍、壞死ニ由テ生スル所ノ損敗ヲ防禦スルニハ其焮衝ニ應スル方法ヲ以テ處スヘシ、殊ニ清血劑ヲ要ス、温湯ヲ以テ頻リニ眼ヲ洗濯スヘシ外用ノ刺戟収斂藥ハ、初期ニ之レヲ行フヘカラス、局處焮衝全ク退キ、特ニ眼ノ知覺機、亢進スル

ヲ遺ス時之レヲ行フヘシ、始ノハ其效微ナル者ヨリ、漸ク移テ刺戟猛烈ナル者ニ及フヘシ、若シ小瘍ヲ發シ、其所深キニアリテ、其縁邉隆起シテ赤色ヲ現ハシ、中心ハ白色透明ナラスシテ乃チ膿アル者ハ、神效石ノ稀釋水ニ、阿芙蓉丁幾ヲ和シ、滴シテ效アリ、刺戟ノ效、猛烈ナル劑ハ、即チ塩酸水、升汞水、赤降汞水、消酸銀水之レナリ、然レ圧之レ等ハ動モスレハ焮衝ヲ再發セシム、只消酸銀ハ此論ノ外ナルヘシ、抑消酸銀ハ、諸種ノ眼焮、衝ニ在テハ、一種妙效ヲ奏ス、故ニ眼焮衝ノ妙藥

トスヘシ、實ニ眼瞼外表ノ焮衝其性ヲ論セス、消酸銀水ヲ早期ニ行ヘハ、其産物ヲ未萌ニ抑制スルノ效アリ、之レヲ名ケテ變草法ト云ス、又悪性淋性焮衝ニモ、此ノ藥奇效アリ（消酸銀ヲ以テ塗擦シ、或ハ溶解シテ點滴スヘシ）

純収斂藥ハ、全治ヲ速ニスルノ效アリ、然レ圧之レニ由テ生スル所ノ瘡痕ハ、厚クシテ不透明ヲ遺ス、夫レ瘡痕ノ不透明ナル者ハ、組織堅厚ヲ失ヒテ生スル者ナリ、左劑ノ點眼水奇效アリ、

硫酸カドミー 氏一　阿芙蓉丁幾 ヌ一　蒸溜水 弓一

右調匀、又極末甘汞ヲ數〻撒抹シテ奇效アリ
或ハ潰瘍、焮衝ヲ病ムノ後、沈衰シテ虚性ニ變スル者アリ、其角膜上ニ生スル者ハ、瘍底鮮明ニシテ、周縁圓ク滑澤ナリ、此症多クハ悪液質ヲ合併ス、故ニ其悪液質ヲ治スルニアリ、局所法ハ、阿芙蓉丁幾ヲ、筆尖ニテ點スルヲ要トス、
軟化ニ轉スル者ハ治シ難シ、或ハ不治トス、而メ勞眼ヲ繼發ス、其治療宜シキヲ得ル者ノミ勞眼ヲ繼發セス、然レ𪜈又少シトス、凡ソ全身ノ悪液質ヲ制シ、尚未タ慢性焮衝留滯スル者ハ、之レニ

應スル處方、殊ニ興奮藥、収歛藥ヲ良トス、皆「ア子ミー」ニ舉ル所ノ法方應ス、
滲出物既ニ成ル者ハ、速ニ勉メテ吸収機ヲ奮發セシムルノ策ヲ行フヘシ、其後兼子テ減損法、譬ヘハ瀉血、下劑、甘汞、及ヒ、水銀膏、沃度膏、皮膚刺戟法ヲ行フヘシ、
若シ焮衝ノ際、水液ヲ著ク眼室中ニ輻輳シ、以テ其部甚シク膨脹セラレ、㩧テ危篤ノ全身諸症ヲ繼發スレハ、揗血眼ニ於ケルカ如ク、角膜ヲ刺シテ其水ヲ漏スヘシ、其術ハ勉期ニ行フヲ要ス、而

メ通例一二日ヲ經テ再刺スヘシ、
著シキ焮衝ノ「セレモシス」結膜焮衝ノ極度ナル者ヲ發スル者ハ、眼球結膜ノ亂刺ヲ要ス、其他有力ノ防焮法ヲ行ヒ、末期ニ至テ沃度加里、五瓦ヨリ十五瓦ヲ一日ノ量トナシ、水ニ和シ服ス、
斑翳及ヒ膿ヲ生スル者、蓋シ此兩症ハ常ニ合併シ顯ル、者ナリ、焮衝常ニ留連シテ、滲出物ヲ大量ニ生出スルコト速ナルニ由テ生スル者ナリ、故ニ此症ニ主治トスヘキ者ハ、焮衝ヲ制伏シ、其再感ヲ防キ、已ニ生出スル所ノ粿粒ト膿汁トヲ疎開シテ、之レヲ吸盡セシムルニアリ、
焮衝ヲ制シ得ルノ後、或ハ已ニ生スル所ノ膿ヲ吸盡シ得ヘカラサル前ニ當リテ、猶釀膿留連スル者ハ、乃チ減損法、特異妙效アリ、但シ之レニ下劑ヲ加フヘシ、沃度劑、遠志、升汞奇效アリ、
眼目虛憊、及ヒ潰瘍ヲ生セントスル状アル者ハ、強壯劑、及ヒ刺戟劑ニ轉スヘシ、殊ニ組織膨脹、弛緩スル者ニ應ス、
膿瘡ハ、始メ上ニ挙ル所ノ法方ニ從ヒ、消焮法ヲ以テ處スヘシ、乃チ之レヲ行フト雖モ、猶吸盡セ

眼科摘要 巻三
臨淵山房蔵

サル者ハ。温氣殊ニ濕温（蒸剤罨布ノ類）ヲ以テ應スヘシ。眼瞼ノ外部ニアル者ニ於テハ、最モ應ス。若シ之レヲ用ルト雖圧應セサレハ。術ヲ用テ其膿ヲ發スルニアリ。術後ハ。膿瘡ノ法ニ據テ處スヘシ。角膜層間。或ハ眼中ニ輻積スル膿ハ。通劑防焮處法ニ由テ消散ス。時ニハ之レニ誘導藥。吸収藥ヲ兼用スヘシ。若シ病眼恢復ノ確定ナキ者ハ。托膿劑ヲ行テ、其吸収カヲ従スヲ良トス。凡ソ之レニ術ヲ行ヘハ。眼中膿ノ鬱蓄ト。手術ノ難易トヲ商量シテ、以テ術ノ可否ヲ定ムヘシ。凡ソ手術ヲ行フニ

ハ。眼中ニ輻湊スル膿ノ害ト。手術ニ據テ致ス危險トヲ斟酌スルヲ要トス。

泌物ヲシテ生機ヲ發セシムルモノハ。輕度ノ焮衝ニ由リ、或ハ慢除ノ滲出ニ由ル者ニシテ、眼瘡ヲ愈合セシムルニハ、獨リ此一機ニアリ。故ニ右モ意ヲ注キテ、其焮衝ノ劇甚ナル者ハ、適度ノ消焮法ヲ行テ、之レヲ微シク制伏セシメ、或ハ焮衝ノ虚慢ナルモノハ、少シク之レヲ亢進セシムルナリ。

眼中ノ諸部ニ生スル斑翳ヘハ、角膜焮衝後ニ生

スルカ如シ、皆各其所ニ應シテ防カスルハ非ス。乃チ其滲出ヲ防キ、其物ノ吸収ヲ勉メテ奮發セシムルニアリ。有カノ防焮法、誘導法效アリ。若シ眼焮衝、及ヒ其繼發症、惡液質ヲ合併スル者ハ、全身ノ惡液質ヲ制スル諸法ヲ兼用セスハ非ス。則沃陣劑、水銀製劑、悉篤滿煎、浴湯等主藥トス若シ之レ等ノ諸方效ナケレハ、舍密様機能或ハ手術ヲ用ヒテ、病的産物ヲ去ルニアリ。

各異焮衝病

眼中各所ニ應シテ、發スル所ノ焮衝ノ諸症各異

レリ、之レ一ハ、受病ノ組織ニ關係シ、一ハ特異原因ニ關係シテ然ルナリ。而メ特異原因ニ由ル者ハ、則チ特異焮衝ナル者之レナリ。

第一屬

眼瞼焮衝

顯症

眼瞼ノ表皮甚シク赤色ヲ顯シ、多少廣延ス、其赤色ノ度烈シキ者ハ、指ヲ以テ壓スト雖モ退カス。常ニ灼熱刺痛ヲ覺ヘ、之レニ觸レハ疼ミ増進ス。腫脹モ亦タ從テ甚シ、分泌始メハ減スルト雖モ、

終ニ増加シ、眼瞼ノ運轉自由ナラス、
病處ニ由リテ是ヲ左ニ區別ス、

甲　眼瞼表皮焮衝

眼瞼受病ノ皮膚赤色ヲ顯シ、其色始メハ指ヲ以テ壓セハ退クト雖圧、終ニハ退カス、皮膚腫脹、乾燥シテ知覺亢進シ、其疼ミ或ハ灼カ如ク、或ハ刺スカ如ク、眼瞼ノ運轉減ス、腺ノ分泌、始メニハ減シ、終リニハ増ス、

原因

器械様ノ損傷、即チ打撲、金創、摩傷、壓迫、湯火傷、日

傷、及ヒ酷厲物之レナリ、

經過　急速ヲ常トス、

轉歸　病性ト原因ノ劇易ニ據テ異ナリ

一　解散　分解ヲ以テ治ス、其原因、劇甚ナル者ト雖圧、全治ヲ致ス者アリ、

二　化膿　體格良善ナル者ハ、化膿ニ轉スルモ只外表ヲ侵スノミ、白色堅厚ノ瘢痕ヲ以テ治ス、若シ化膿深所ヲ浸蝕スル者ハ、其瘢痕隆起シテ、醜體ヲ遺シ、積年青色ヲ顯シ、少シク寒冷トナル、此瘢痕ヨリシテ繼發スル所ノ症ハ左ノ如シ、

以　皮膚ノ瘡痕醜形ナルニ據テ、眼瞼外反ヲ致ス者

外皮短縮スレハ、眼瞼ノ邊縁外反シ、又瘢痕ニ從テ牽引セラレテ焮衝ニ轉シ、遂ニ肥厚トナル、稀レニハ結膜外皮ニテ被覆セラル、コアリ、流涙常ニ頰上ニ流泄シ、眼球動モスレハ焮衝ニ罹リ易ク、眼貌醜悪ニシテ手術ニ非サレハ治セス、

呂　眼瞼破裂

此症眼瞼ノ全徑ニ、縦裂横裂ヲ致シ、其邊縁少

シク外反ス、即チ眼瞼外反ニ擧ル所ノ顯症ヲ致ス、

波　兎眼

眼瞼全ク合閉スルコ能ハス、眼背短縮ス、此症ハ瘡痕ノ醜悪ニ由リ、又眼瞼提挙筋ノ短縮ニ由テ生ス、而メ多クハ難治ノ症トス、眼瞼外反ノ症状ヲ顯ス、

仁　上瞼下垂

此症ハ、上瞼ノ提擧全カラス、或ハ全ク提擧スルコ能ハサル者ヨリ生ス、大抵眼瞼、及ヒ眉邊

ノ瘡痕廣大ナルニ由テ生ス。前症ニ比スレハ治シ易シトス

(保)眼瞼癒合

此症ニ一分ナル者アリ。或ハ全瞼癒合スル者アリ。其一部分ノ癒合ハ。多クハ外眥ニ發シ。猶且全瞼癒合スル者ト雖氏。内眥ハ少シク癒合セサル者アリ。之レヨリシテ流涕漏出ス。或ハ兼子テ眼瞼結膜。眼球結膜ト癒合スル者アリ。若シ眼瞼癒合ノ。幼童ト時ニ發スル者ハ。眼球ノ發育障碍セラレ。其一部ノ癒合ハ。漸々増シテ

眼眥至小トナル。凡ソ此症ノ。腐蝕物。火傷及ヒ眼瞼潰瘍其治療ヲ誤ル者ヨリシテ生ス。而メ難治トス。

(邊)壊死

皮色悪ハキ(灰)白黒色トナリ。悪膿流出シテ其組織ヲ溶解ス通例舍密様ノ機能。或ハ火傷ニ由テ繼發スル者ナリ。劇甚焮衝ノ轉歸トナリ来ル者稀レナリ。

預後一吉ナラストス。尋常ノ瘡ニ回復シ難シ。凡ヘテ原因經過ニ關係シテ。豫後ヲ定ムヘシ。

眼瞼表皮焮衝治法

主治、第一原因ヲ去リ、第二瘡顯ハル、者ハ、規則ニ從テ之レニ應スヘシ、第三局所全身ノ防焮法、殊ニ寒罨法ヲ要ス、

轉歸療法

［一］分解法　［二］托膿法、共ニ焮衝總論ニ擧ル法方ニ從フ、

［以］繼發症ノ眼瞼外反ヲ制ス、乃チ瘡痕ヲ結フノ際ハ、収斂劑ヲ塗貼シテ、其瘡痕ヲ壓絶スルニアリ、而メ患者ニ命シテ、眼瞼ヲ頻ヽ努カシ

テ、強ク開合セシムヘシ、温貼法、油脂ノ塗抹法效アリ、若シ外反甚シキ者ハ、手術ヲ行ヒ、其瘡唇ヲ合縫シテ以テ治スヘシ、

［呂］又手術ヲ以テ治スヘシ、

［波］眼瞼外反ノ法ニ同シ、

［仁］又手術ヲ要ス、

［保］乃チ手術ヲ以テ、其癒合ヲ防キ、殊ニ術後、治法ヲ用ヒテ、再新ノ癒合ヲ防クニアリ、通夜睡眠セシメス、常ニ睡リヲ破リテ、眼瞼ヲ時ヽ運動セシメ、若シ些少癒合ノ兆ヲ顯ハス者ハ、立

地ニ之レヲ剖開スヘシ。若シ肉芽ヲ生スレハ
消酸銀、或ハ阿芙蓉ヲ塗リテ、其發育ヲ制スヘ
シ。

邉 總論ニ從テ、之レヲ處置スヘシ。

乙 眼瞼蜂窠織焮衝

病症

皮膚焮衝ニ同シ。只赤色不齊、其廣延モ亦平等ナ
ラス、指ニテ壓スニ其色消散セス、赤色減シテ後
腫脹ヲ生シ、其腫琶布ノ如シ、疼痛猛シク、剖クカ
如ク、或ハ刺スカ如ク、或ハ灼カ如シ、眼瞼ヲ運動

スレハ益增加ス。却テ其熱著シカラス。大抵全身
症ヲ顯ハサス。發熱ナク、消化機病マス。凡ツ此焮
衝ノ原因ハ、全身中ヨリ生スル如クニシテ、而メ
其原因トナスヘキ者ノ、確實ニ指シ難キナリ。眼
ノ周圍著シク腫脹シテ、赤色ヲ顯ハシ、結膜モ亦
多クハ赤色ヲ顯シテ膨脹ス。

原因

瘰癧質、惡液質ニシテ、著シキ誘因ナク生スル者
ナリ。

經過 迅速ニシテ、其焮衝化膿ニ移ル。

轉歸

其一、化膿ニ移リ膿瘡トナル、則チ術ヲ以テ速ニ剖スハ非ス、然ラサレハ其膿皮下ニ蔓延ス、而メ膿色ハ、薄帶褐赤色ナリ、此膿垂下スレハ乃チ輻積瘍ヲ生ス、

其二、壊死ニ變ス、甚タ稀レナリ、乃チ皮膚蜂窠織全ク損敗セラル、

其三、硬結モ亦稀レナリ、

治法

初期ノ、誘導法、寒罨法、已ニ膿ヲ醸スニ至テハ、托膿劑、琶布、蒸劑應ス、膿瘍ハ、早ク剖開スルヲ妙トス、壊死ハ亞的児ヲ以テ洗濯スヘシ、硬結ニ變スル者ハ、焮衝總論ニ擧ル法ヲ以テ應スヘシ、

眼瞼組織焮衝

各所ニ從テ異ナル者、

第一内眥焮衝

此腫、或ハ涙嚢ニ接シテ生シ、動モスレハ化膿ニ轉シ易キ性アリ、其腫隋圓ニシテ、緊張滑澤ナリ、知覺亢リテ、其色帶青赤色ナリ、而メ下タト外トニ向テ走ル、時ニハ眼瞼或ハ眼面浮腫シ、殊ニ病

所ノ半面甚タシ、知覺尤進ノ性質ヲ具スル者ニ於テノミ、刺衝熱ヲ發ス、時ニハ此腫、涙管、メーボーム腺、結膜ニ波及ス、其涙管ニ及ホス者ハ、之レカタメニ涙汁ヲ導泄スルコ能ハス、メーボーム腺ニ及ホス者ハ、其腺ノ分泌増進ス、由テ涙汁流出、知覺尤進等ノ症ヲ生シ、眼瞼波動ヲ生ス、夜間眼瞼強直トナリ相粘接ス、

原因　素因ハ、通例悪液質、痔疾、

誘因　胃寒、器械様ノ刺戟、啼泣、及ヒ寒氣ノ感傷之レナリ

轉歸

一　解散　此症甚タ稀レナリ、

二　速ニ托膿シテ、著シキ腫脹ヲ顯ハシ、皮膚青色ニシテ或ハ波動ヲ顯ハシ、膿瘍一二日ヲ歴テ破潰シ、膿汁壞死セシ蜂窠織、及ヒ血液ヲ漏泄シ、以テ腫脹消散シ、凹底ノ潰瘍ヲ遺ス、膿汁ヲ漏スノ後ハ、焮衝速ニ消散ス、若シ之レニ治療ヲ加ヘス、或ハ又加ルモ適當ナラサレハ、經過緩慢ニシテ頑固ナリ、瘡縁胼胝状ヲナシテ、泌別淡水ノ如ク、遂ニハ酷厲腐蝕ノ性ニ變ス、

鑑定

淚道ノ病ニ罹ルカ、然ラサルカヲ鑑定セスハ非ス。若シ病ヒ化膿ニ轉スレハ、尤モ識別シ易シトス。

治法

初期ニハ解散ヲ促スヲ勉ムヘシ。則誘導法、収斂洗濯法ナリ。化膿ノ時ニ當テハ、温罨布、托膿膏及ヒ其硬膏ヲ貼シテ、病所ノ硬結ヲ除キ、且ツ膿汁ヲ泄スニアリ。

第二 眼瞼血瘍

眼瞼外皮ニ、堅キ小腫ヲ發シ、緊痛アリテ状チ圓ク其色暗赤ナリ。終リニハ柔軟トナル。是レ多クハ脂梜嚢、及ヒ之レヲ纒囲スル蜂窠織ニ、焮衝ヲ生スル者ナリ。

原因 素因

痛風、腺病、多血家之レナリ。

誘因 冒寒、刺戟物、啼泣、常習出血ノ閉塞之レ也。

經過 小腫ハ、三日ヨリ六日ニシテ治シ、大腫ハ、八日ヨリ十二日ニシテ治ス。

轉歸

一 大抵化膿ニ轉ス。其内皆ハ膿塊ヲ生ス。

二　硬結ニ轉ス。殊ニ之レヲ剖開スルコト早キニ過キ、又治療宜シカラサレハ、再新ノ焮衝ヲ起シ以テ硬結ヲ致ス。

三　壞死ニ轉スル甚タ少レナリ。壞死ノ産物去リテ速ニ良善ノ化膿ヲ起シ、肉芽ヲ生シテ治ス。

豫後

尋常ナル者ハ吉トス。壞疽ニ轉スル者ハ稍危シ

治法

温罨布、温蒸劑ヲ用ヒテ其硬結ヲ柔軟シ、以テ化膿ヲ促スヘシ。硬結ヲ遺ス者ハ、沃陣膏、水銀膏ヲ

塗貼ス。已ニ壞死ニ轉スル者ハ、慎テ其死潰ヲ去ルヘシ。（剪刀或ハ刺戟膏ヲ用ルニアリ）而メ眼瞼外反ヲ防クニアリ。

第三　眼瞼瘍

眼瞼灼痛ヲ覺ヘ、腫脹シテ堅ク、帯青赤色ヲ顯ス、而メ小疱ヲ生シ、眼ノ周圍、及ヒ時ニハ其半面腫脹シテ知覺亢フリ、之レニ兼子テ全身發熱シ、神經著シク衰弱ス。乃チ之レカタメニ病者死ヲ致スコトアリ。

原因　素因

老人。痛風。貧乏。放逸。不潔。局所ノ刺戟。冒寒之レ也。

轉歸

必ス壞死ニ變ス。乃チ皮膚褐色。或ハ黒色ニ變ス知覺ヲ失ヒ。所々破潰シテ。其質ヲ消亡スルコト。他部ニ發スル瘍ノ如シ。

豫後

凶ナリ。或ハ性命ヲ損シ。或ハ其部ノ組織ヲ頽敗ス。

治法

早ク十字形ニ剖開シ。塊物ヲ去リ。其後已ニ論ス

ル如ク。外反等ノ繼發症ヲ防クニアリ。

第四眼窩内蜂窠織及骨衣焮衝

眼窩内ニ疼痛ヲ覺ヘ。コノ疼ミ劇甚ニシテ。或ハ壓スカ如ク。或ハ刺スカ如シ。眼瞼。眼球共ニ運轉ヲ碍ケラレ。眼瞼ノ邊縁。殊ニ其上縁ト。眼球結膜トニ赤色腫脹ヲ發シ。熱涙ヲ流シ。眼中乾操シテ灼カ如キヲ覺ヘ。眼球左右ニ向テ突出ス。此疼痛時ニハ全頭ニ波及シ。病ヒ蔓延スルニ至テハ。視力遂ニ消亡ス。瞳孔縮小シ。網膜知覺ヲ失フ。病初ヨリ發熱シ。或ハ劇甚ナルコトアリ。又焮衝腦膜ニ

及ホシ、以テ脳膜焮衝ノ諸症ヲ發起シ、眼球モ亦時アリテ焮衝ニ罹ルヿアリ。

原因　此病ハ稀レナリトス。

素因　痛風、腺病、梅毒之レナリ。

誘因　感傳、冐寒、外傷之レナリ。

經過　急慢二性アリ。

轉歸　一 解散

二 化膿　凡ソ此症増進スレハ、則チ膿ヲ醸ス。膿汁十分泌シテ、之レヲ眼瞼骨衣ニ傳ヘ、終リニ外部ノ皮肉ヲ破リテ膿ヲ漏泄ス。

三 骨潰瘍、骨壞死ニ轉スル者ハ、膿汁惡性ナリ。骨潰瘍、骨壞死共ニ定症ヲ顯ハスヲ以テ之レヲ知ルヘシ。

四 蜂窠織硬結　慢性焮衝、動モスレハ此轉歸ヲ致ス。

五 骨皮膚ノ肥厚　眼瞼ノ開閉難澁シ、時アリテハ眼瞼本位ヲ失フ。

豫後

病ヒ蔓延スル者ハ吉ナラス。多クハ視力消亡ヲ兼係ス。又脳及ヒ脳膜ニ波及スレハ、之レカタメ

ニ死ヲ致ス。

治法

焮衝盛ナルトキハ。刺絡。水蛭。寒罨法。下劑。水銀膏ノ摩入ヲ行ヒ。光輝ヲ避ケ。清凉ノ所ニ居ラシメ。稀薄ノ食餌ヲ與ヘ。頭ヲ高クシテ安臥セシムヘシ。體格強健ニシテ。病度劇勢ナレハ。之レ等ノ法右及ヒ有カノ藥劑ヲ應用スルヲ良トス。已ニ轉歸症ヲ發スルニ至テハ左ノ如シ。

轉歸療法

（二）温琶布。温蒸劑ヲ用テ釀膿ヲ促シ。瘡ハ速ニ

剖開スヘシ。其他誘導治法ヲ要ス。而メ猶ヲ病症ニ應シテ。治法ヲ立ツヘシ。若シ慢性ナレハ。阿芙蓉丁幾ノ刺戟カヲ藉リテ。之レヲ少シク衝動セシメ。瘍内肉芽ヲ萌生セシメ。而メ瘢痕ヲ結ハシム。

（三）先ツ瘡ヲ剖開シ。綿糸ヲ挿スヘシ。綿糸ニハ阿芙蓉丁幾。或ハ援尓撒母窩ト侄児托夫ヲ塗貼シ。以テ瘡内ニ填充シ。瘍ヲシテ癒ヘサラシム。若シ瘍内ノ骨疛。其本骨ヨリ離レテ留滞スル者ハ。鑷子ニテ之レヲ摂リ去ヘシ。骨瘍治スレ

ハ、肉瘍自ラ治ス、然レ𪜈死肉生骨ヨリ離ルヽニハ、数月ヲ費ス者ナリ、若シ病者悪液質ナレハ、之レヲ制スルニアリ、凡ヘテ過劇ノ剤ヲ過スヘカラス、

四五即チ溶解治法ヲ要ス、蜞針、罨布、水銀膏、沃陣膏ノ擦入、項ノ打膿、熟期ニハ瓦尓抜尼効アリ、

第二属

睫毛根焮衝

多クハ眼ヲ他病ト合併ス、睫毛根嚢腫脹ス、殊ニ

上瞼ニ於テ多シ、嚢底膿状ノ如キ者ヲ造成シ、而ノ遂ニ硬結シテ、黄色ノ痂ヲ結ス、故ニ毎朝眼瞼之レカタメニ緊連シテ開クヿ能ハス、通例眼瞼ノ邊縁、腫脹シテ赤色ヲ顕ハシ、眼瞼結膜モ亦タ然ルヿアリ、病者常ニ掻痒灼熱ヲ覚ヘ、又或ハ羞明ヲ兼併ス、

原因 痛風、腺病、

經過 甚タ緩慢ナリ、

轉歸

イ 睫毛脱落 通例其一部ノミ脱落シ、而ノ更ニ

新生ス、之レヨリ繼發スル所ノ症ハ、眼瞼ヲ屢瞬シテ止マス、又頗ル慢性眼焮衝ニ苦シム、

ロ眼瞼腫瘍甚タ稀レナリ、

ハ眼瞼邊縁ノ胼胝状變性　此症ハ無數ノ結節ヲ全面ニ生シ、而メ赤斑ヲ顯ハス、時ニハ增長シテ軟骨状ニ變ス、此ノ如キ轉歸ヲ致スハ、沕乙溢出ノ時期ニ當テ、焮衝ヲ壓迫スニ由ル、

ニ睫毛内反　眼中ヲ常ニ刺衝シテ、焮衝ヲ生シ易キ性頗ル多シ若シ淚點變性スレハ、不治ノ淚出ヲ致ス、

豫後

睫毛根焮衝ノ治法宜シカラス、又有力ノ方法ヲ以テ之レニ應セサレハ、即チ病ヒ緩慢ニ經過ス、多クハ腺病ヲ合併シ、之レカタメニ豫後ヲ凶トナス、

治法

通例焮衝ノ初期速ニ經過シテ之レヲ認メ難クシ、故ニ其治療ヲ行ハスシテ經過スル者多シ凡ソ眼瞼ノ邊縁、暗色青色ニシテ、少ク赤色ヲ帶ヒ、其所ノ脉管努張シテ、毛根腫脹スレハ、忽チ其所

二生スル膿ハ乾燥シテ黄色ノ結痂トナル乃チ亜鉛花赤降汞ノ眼膏ヲ作テ用ルヲ良トス然レ圧腺病此病ヒノ原因トナリテ來ル者多シ即チ眼膏ニ無子テ悪液質ヲ制伏スルヲ要ス

轉歸療法

（イ）毛囊損敗スルニ攖テ繼發スル者ハ之レニ應スル處法ヲ行フヘシ受病ノ睫毛ハ皆抜除シテ其毒ノ傳染ヲ防クヘシ若シ睫毛ヲ抜除シ盡セハ眼屎（オーフシケルム）ヲ常ニ用ルヲ緊用トス

（ロ）其外表ニ生スル者ハ良善ノ内外治法ヲ行

ヘハ速ニ治ス外用ハ眼瞼焮衝ニ擧ル法方ヲ撰用スヘシ「エレチセ」知覺敏鋭潰瘍ハ甘汞軟膏ニ阿芙蓉越幾斯ヲ加ヘテ應ス「トルピーテ」知覺鈍麻潰瘍ニハ龍腦清淨阿芙蓉ヲ甘汞ニ配伍シテ應ス或ハ阿芙蓉ヲ點スルコ毎日一二回ニシテ奇効アリ胼胝狀或ハ經久潰瘍ノ瘀肉ニハ消酸銀ヲ以テ之レヲ腐蝕セシメ瘡痕ハ已ニ論スル所ノ法方ニテ治スヘシ

（ハ）先ツ悪液質ヲ制シ之レカタメニ刺衝物トナル所ノ睫毛ヲ抜除シ軟化溶解ノ外用法頗

ル效アリ。變性物留連シテ去ラサレハ。或ハ之レヲ腐蝕スヘシ。瘡痕乃チ治ス。

㊁鑷ヲ以テ睫毛ヲ抜去スルニアリ。若シ其效ナケレハ手術ヲ用テ。眼瞼ヲ切除スヘシ。

第三屬

瘤 即粟粒腫

此症ハ眼瞼。棱ヲ荒敗スル所ノ燃衝ニシテ。殊ニ邊縁ニ多ク發ス。上瞼ニ頗ル多シ。

顯症

卒然トシテ睫縁ニ赤腫ヲ發シ。大小一ナラス。其

大者ハ豌豆ノ如ク。小者ハ小豆大ノ如シ。腫脹赤色。蔓延シテ或ハ眼瞼ノ全部ヲ襲フニ至ル。疼痛或ハ灼カ如ク。或ハ射ルカ如ク。眼瞼ノ運動澁リ。羞明アリテ。眼瞼ト強膜ト。兩結膜。共ニ燃衝ヲ生シ。泌別増加シテ。眼瞼粘連ス。

經過

多クハ急速ニシテ。血腫ノ如シ。怠慢ナル者稀也。

原因 素因

腺病之レナリ。或ハ痛風ヨリ起ル者アリ。

誘因

不良ノ空氣、薫煙、不潔、汚穢、及ヒ隙風之レナリ

轉歸　一 化膿ヲ以テ治ス、頗ル多シトス。

二 瘍ニ變ス、甚タ稀レナリ。

三 硬結ニ轉ス、其硬結ニ二種アリ、一ハ所謂霰腫ニシテ、累々硬結シ、一ハ眼瞼ノ全部硬結ス、凡ソ此ノ轉歸ハ治療宜シキヲ得ス、其病機ヲ歷閉セシムルニ由ル。

霰腫ハ、硬結ニシテ疼痛ナク、粿粒ヲナス、其色帶白赤色ニシテ、其内稀汁ヲ藏メ、自ラ破潰シテ其腫消散スル者アリ、其堅硬物ヲ藏スル者ハ、數年ヲ經テ變セス。

豫後　良治ヲ得レハ吉トス。

治法

溶解劑效アルコ稀ナリ、故ニ食禁ヲ嚴ニシ、緩下劑ヲ與ヘ、微温琶布ヲ貼シテ、以テ托膿ヲ促スニアリ。

遺病　其狀性ニ應シテ治ヲ施スヘシ。

炭疽　其治法ヲ以テ應ス、炭疽ハ沃陳膏ヲ塗入ス、其硬結スル者ハ、沃陳丁幾ヲ筆ニテ塗リ、「ホフマン」液、及ヒ「ヘリユホルセム」等應ス、之レニ

由テ化膿スレハ病ヒ或ハ消亡ス。凡ソ剔出法ヲ確實トナス。

第四屬

メーボーム梜焮衝

此症稀レナリ。多ク腺病痛風家ニ在テ生ス。稀レニハ僂麻質、聖京偃、小腹多血家、之ニヲ患ルヿアリ。多クハ眼瞼結膜焮衝ヲ合併ス。

顯症

時ニメーボーム梜、結膜ヲ透(スキトヲ)シテ僅ニ其形チヲ見ハス「アリ。多クハ此梜ノ一梜屬ハ焮衝ヲ生

シ。其他屬ハ焮衝ニ罹ラス。而シテ結膜ノ焮衝ヲ兼併スルヲ常トス。

經過多クハ慢性ナリ。

原因上章ノ如シ。

轉歸 〔一〕解散

〔二〕硬結。梜ノ漏泄管閉塞シ、以テ小結腫ヲナス。堅クシテ葡萄ノ如ク、其色黄ナリ。故ニ外状小結節ニ類ス。

〔三〕嚢腫 流液ヲ藏ム。

豫後

多クハ吉トス。初期ニ之レヲ療スレハ。全治ヲ得。其硬結ニ變スル者ハ。頑固ナリ。嚢腫ハ。凡テ剔出スルヲ良トス

治方

病者ノ體格ニ從ヒ。又本病ノ原因トナル悪液質ニ從テ。治ヲ施スヘシ。外用ハ。冷水。鉛糖水。赤降膏。白降膏。嚢腫ハ之レヲ剔出スヘシ

苐五屬

涙阜焮衝

此症稀レナリ。涙阜甚タシク赤腫シ。半月狀ノ結

膜腫モ亦從テ赤腫シ。遂ニ其内縁ニ赤色ヲ及ホス。以テ此症ノ正徴トナスヘシ。而メ疼痛灼カ如ク。涙流レ。膿モ亦流出シ。検閉塞シテ腫脹セル粘液ノ如ク。小黄尖ヲナス。若シ體質ノ知覺敏ナル者ハ。之レカタメニ發熱ス。經過急慢ノ二性アリ。

原因。素因ハ。痛風。腺病。聖京倔之レナリ。誘因ハ。塵埃砂石ノ眼中ニ飛入スル者之レナリ。

轉歸　一　解散

二　化膿。乃チ膿瘡ヲナシ。其膿ヲ漏セハ。腫從テ収小ス。

〔三〕涙阜消亡　〔四〕涙阜肥大

即チ肥大スレハ豌豆大ニ變シ猶或ハ夫レヨリ
肥大ニ至リ眼瞼ト眼球ノ動搖ヲ妨ケ而ノ涙面
上ニ流レ其至大者ニ至テハ眼瞼外反ヲ致ス

豫後

初發ニハ治シ易シ化膿甚シカラサル者ハ全治
ヲ碍ケス硬結ニ變スル者ハ之レヲ裁除スルニ
アリ

治法

霰腫ニ同シ膿瘡ヲナセハ之レヲ剖開スヘシ其

消亡スル者ハ不治ナリ肥大者ハ剔出法ヲ以テ
之レヲ去リ術後寒罨法ヲ行フヘシ

第六属

涙梜爀衝

此症極メテ稀レナリ「セミー」ト「マルテン」人名共ニ此
病ヒヲ論スル丁確實ニシテ又急慢二性アリト
云フ其急性ナル者ハ涙汁ノ泌別減少シ或ハ全
ク閉絶ス其慢性ナル者ハ泌別増進シ局所ノ蜂
窠織爀衝ノ症狀ヲ顯ス其涙汁流出スル丁非常
ニ甚シキモノアリ其理ヲ究ル丁能ハス（一晝夜三比四）

十一 戔計

轉帰 一 涙核硬結 三 涙核漏

豫後。治法。共ニ眼窩内蜂窠織焮衝ニ同シ。

第七屬

涙囊焮衝

此病ヒハ稀レナラストス。又急慢ニ性アリ。慢性頗ル多シ。

顯症

両性ノ通症ハ。腫脹シテ涙汁ノ轉輸ヲ障碍シ。鼻ノ粘膜乾燥シ。眼中多涙等ナリ。

急性症ハ。涙囊部ニ當テ腫レヲ生シ。其大サ豌豆ノ如ク。之レニ觸ルレハ疼痛ス。而メ涙囊ノ内位ニ。膿ヲ釀ス了速ニシテ且ツ多シ。乃チ囊上ヲ壓セハ。膿鼻中ニ流レ。或ハ涙阜ヨリ出ツ。内眥ノ邊縁腫脹シテ粘連ス。其症劇甚ナル者ハ。或ハ灼カ如ク。或ハ裂カ如シ。而メ腫著シク増大ス。動モスレハ焮衝。其近隣ニ波及ス。

慢性症ハ。慢性諸状ヲ以テ顯ワレ。化膿甚シカラス。時ニハ休息シテ顯ワレ。其經過甚タ緩ナリ。或ハ焮衝時アリテ減シ。只膿汁ヲ流泄スルノ一症

ヲ遺ス。其間甚タ日ヲ延ク者アリ。

原因

悪液質。殊ニ痛風。腺病。粘液ノ刺衝機亢進。器械様ノ外傷。轉移毒之レナリ。慢性病ハ。涙汁一異ノ刺戟質ヲ具ヘテ。以テ本病ヲ継發スルヿアリ。涙道閉塞モ。亦此病ヒヲ致ス。

轉歸 [一]鮮散　適當ノ治療ヲ行ヘハ。速ニ鮮散ス。蓋シ再感ノ性ヲ遺ス。

[二]涙嚢粘液流出　是レ涙嚢ニ膿様ノ粘液ヲ分泌シテ止マサル者ナリ。殊ニ慢性病ニ此症ヲ遺

シ易シ。而メ頗ル多キ轉歸ナリ。之レニ轉スレハ。其症連月數年ヲ經ル者ナリ。

[三]涙嚢涙道狹益　此ノ轉歸ハ。慢性焮衝後ニ頗ル多ク顯ハル、一症ナリ。其據テ起ル所以ヲ左ニ掲ク。

[甲]粘膜腫脹。膨脹ニ由ル

[乙]稠厚粘液ノ欝積ニ由ル。

[丙]恣肉ノ怒張ニ由ル。

[四]涙嚢弛緩水腫　此ノ轉歸ハ。弛緩質ノ人涙嚢焮衝ヲ數〻發シテ留連スル者。及ヒ淋眼ノ後屢

顯ワルヽ者ニシテ、其變出モ亦緩慢ナリ。

五 淚囊淚管愈著　此轉歸ハ、淚汁泌別障碍ヲ無併スルヲ以テ知ルヘシ。

六 淚囊膿瘡　焮衝常ニ增劇スレハ、即チ膿瘡ニ變ス。將ニ破開シテ膿ヲ漏スヘシ。

七 淚囊漏　内外アリ。

甲 外漏　獨リ淚囊外辟ヲ穿チテ、之レヲ皮上ニ現ワス者ナリ。

乙 内漏　淚囊ノ内部ト、淚骨ヲ穿チテ内部ニ孔ヲ通スル者ナリ。故ニ惡臭膿ヲ鼻ニ傳ヘテ

漏シ、通例之レニ兼子テ惡性鼻瘍ヲ顯ハス。此症ハ上章ノ轉歸ニ出ル者ナリ。

八 淚腺弛緩　焮衝屢發スレハ、此經過ヲ致ス。

九 淚點愈合

辨論　淚囊焮衝、及ヒ其繼發症ハ、他病ニ錯誤シ易シ。之レヲ辨セスハ非ス。鼻翼腫ハ其形狀相似タリト雖モ、通例經過急性ナルヲ以テ辨シ得ヘシ。然レモ鼻ヨリ腫レ、既ニ膿瘡ニ變スル者ハ、辨別シ難シトス。之レニ續テ内眥ノ諸症辨シ難シ。上ニ擧ル症狀ヲ以テ、之レヲ辨セスハ非ス。

豫後

初期ニ辨識シテ治法宜シキヲ得レハ速ニ治ス。然レ𪜈慢性症ニ轉スレハ難治トス。粘液膿汁ノ流出ハ經過緩慢ニシテ根治ヲ致スハ稀レナリ。多クハ愈合涙嚢漏ヲ遺ス。然レ𪜈病者小児ナレハ陰情發起ノ時節ニ至テ幸ニシテ全治ヲ得シ者ヲ屢〻試見セリ。恣肉ヲ生シ涙道愈合スル者ハ殆ト不治トス。涙道狹隘スル者ハ吉ナラス。初期ニ善治ヲ得レハ速ニ治ス。若シ之レヲ怠レハ他病ニ變シ終ニ嚢漏ニ陥ル者トス。外漏ハ通例

ハ治ス。内漏ハ殆ト不治トス。涙點弛緩ハ治スヘク。涙點愈合ハ不治トス。

治法

急性症ハ有力ノ消焮法。刺絡。水蛭。清凉下劑。寒罨法。脚浴等之レナリ。慢性症ハ適度ノ防焮治法ヲ行ヒ。水銀膏ニ阿芙蓉ヲ和シ。之レヲ眼圍ト内眥ニ摩入ス。而メ焮衝ノ諸症悉ク去ルニ至テ止ムヘシ。尚涙嚢ヲ下方ニ軟撫シ。以テ嚢中含ム所ノ液ヲ流泄セシムルニアリ。病源トナル所ノ惡液質ハ。其性ニ從テ之レヲ根治セスハ非ス。

轉歸療法

（三）焮衝未タ退カサル間ハ防焮治法。及ヒ誘導法ヲ連用スヘシ。其後。轉罨藥収歛藥ヲ以テ粘液膜弛緩ヲ制スヘシ。此症ニ頗ル奇效アルハ神效石水ニ阿芙蓉丁幾ヲ和シ。之レヲ點滴スルニアリ。其始メ之レヲ點スル片ニ當テハ。涙嚢ヲ下方ニ向ケテ壓定スヘシ。其後病者ヲシテ一二時間閉目セシメ。而メ仰臥セシムヘシ。乃チ水藥涙嚢ニ通ス。蓋シ涙嚢ニ通セシムルニハ。眼水ニ非サレハ能ハス。如此キ治法。大凡二月間持長シテ。且ツ涙嚢ニハ解凝ノ硬膏ヲ貼ス。乃チ全治ヲ得ルナリ。其全治ニ至ラサルモ。殆ト治スヘシ。又「ア子ルス」人名ノ小銃。「ケンタアール」人名ノ「カテーテル」ヲ以テ。此點眼水ヲ涙嚢中ニ射注スル者アリ。然レ圧此ノ器ハ。病所ヲ刺戟スルノ患アリトス。凡ソ此水劑ヲ持長スル際。分泌機著シク減スレハ。猛カノ藥劑ニ轉スヘシ。即チ皓礬「カトリユム」等ノ藥劑ヲ良トス。若シ膿様ノ分泌全ク治スレハ。更ニ収歛藥ヲ久シク連用シテ。其反復ヲ防クヲ要ス

又或ハ涙管ヲ剖開シテ以テ愈薬ヲ灌クノ法アリ。

三 此法上ノ淋眼ニ異ルヿナシ。若シ恣肉ヲ生スル者ハ。根治法ヲ行フヘカラス。姑息法ヲ以テ其劇發ヲ制スルニアリ。凡ソ病者ノ體格ニ應シテ其惡液質ヲ制セスハ非ス。涙嚢涙管ヲ剖開シテ。而メ腐蝕劑ヲ貼シテ以テ其所ヲ潰廢セシムルノ法アリ。然レ𪜈涙漏常ニ治セスシテ。腐蝕劑ヲ貼スルノ法容易ナラストス。

四 涙嚢ノ縮力ヲ挽回セシムルノ法ヲ専要トス。屢涙嚢ヲ壓シテ。其内ノ蓄水ヲ排泄シ。而メ内眥ト外皮ノ両道ヨリ。収斂劑ヲ行フニアリ。其輕易ナラサル病ニハ。淋眼ノ如ク處置スヘシ。或ハ烙鐵越幾ヲ外用スル者アリ。而メ越幾𪜈效アリトス。弛緩甚シキ者ハ。其一片ヲ剪除シテ效アル者アリ。

五 涙管ヲ剖開シテ。腸線ヲ挿入シ。毎日之レヲ交新ス。始メハ小線ヲ用ヘ。漸々ニ大線ニ至ルヘシ。乃チ涙管稍開ケハ。腸線ニ替ルニ鉛線ヲ以テスヘシ。而メ其内面愈テ。皮痕ヲ生スルヲ

察シテ、之レヲ抜除スヘシ、内薬ハ合併症ニ應シ、一ハ悪液質ヲ制シ、一ハ外用治法ヲ助ルニアリ。此病多クハ再發ノ患アリ。乃チ他術ナシ、涙嚢涙管ヲ術ヲ以テ頽敗セシムルノ一法存スルノミ、凡ク鉛管ヲ常ニ挿入シテ、更ニ或ハ涙道ヲ開テ、内鼻ニ其通路ヲ製スルノ術アリト雖モ、其術ハ無益ナリ。

〔六〕焮衝留連スレハ、防焮治法ヲ以テ之レヲ制スヘシ、而メ温罨布、温蒸劑ニテ醸膿ヲ促スヘシ、已ニ膿瘡ヲ生スレハ、速ニ大孔ヲ穿チテ之レヲ開キ膿汁ヲ十分ニ漏出セシム、潰瘍ヲ繼發スレハ、収斂射注薬ヲ用テ、速ニ収斂セシム、此症多クハ良善ニ治愈ス、

〔七〕単性ナル者ハ、其口ヲ開キ消酸銀ヲ貼スレハ、通例速ニ治ス、其合併症アル者ハ、其本性ニ從テ治スヘシ、腐骨疽、骨潰瘍ハ全治ヲ碍ク、漏口ヲ哆テ、適應ノ薬ヲ通セシムルニアリ、常ニ意ヲ體格ノ疾病ニ注キテ、之レヲ制スルニアリ、此骨症甚タ廣キ所ヲ損敗スレハ、涙嚢續テ愈合シ其職ヲ失フ、若シ瘡面ヨリ恣肉ヲ生ス

レハ消酸銀ヲ塗貼シテ之レヲ消亡スヘシ

〔八九〕涙嚢屚ノ治法ニ同シク刺戟藥ヲ以テ之レヲ治スヘシ若シ其愈合白膜ヲ以テ涙點ヲ被覆スル者ハ鍼ニテ之レヲ刺シ而メ毛髮ヲ挿入シ終リニハ鉛線ニ替ユヘシ然レ𪜈再發シ易シ若シ涙嚢中粘液ヲ見ワシテ以テ沮塞スル者ハ涙嚢ヲ壓シテ鼻孔ヨリ液汁ヲ流出セシム又涙嚢ヲ損敗セシムルモ可ナリ

第八屬

眼筋及ヒ筋衣ノ焮衝

顯症

眼軸ノ方位自然ヲ失ヒ而メ眼ノ當中ニ疼痛ヲ兼併ス都テ眼ヲ運轉スレハ疼痛ヲ生ス殊ニ其運轉ハ病ヲ受ル筋ノ運轉ニ出ルトキハ疼痛倍劇シ病所ノ眼筋根着スル所ノ邊リニ眼球赤色ヲ顯シ遂ニ角膜ニ及ホス眼中涕汁多ク患者靄霧ヲ見ルカ如シ眼瞼ノ開合難ク多クハ一筋ニ筋共ニ焮衝ヲ受ク二筋以上共ニ病ヲ受ルハ稀レナリ殊ニ轉眼神經ノ末稍蔓延スル所ノ筋之レニ係リ易シ瞳孔常ニ縮小ス此病多クハ脂肪骨

衣。結膜。強膜ノ焮衝ヲ合併ス。而シテ其經過緩慢ナリ。

原因

僂麻質及ヒ筋衣ニ傳接スル所ノ焮衝ノ波及ス其他外傷ナリ。

轉歸 (一)全治

(二)筋ノ肥厚焮衝モ亦此轉歸ヲ致ス。凡ソ筋肥厚ナレハ。其機動非常ニ增大スルヲ以テ。斜視ヲ致ス。

(三)筋ノ愈合。及ヒ焮衝連接部共ニ愈合ス。此轉歸ハ甚タ稀レナリ。

(四)筋系。稠厚硬結。乃チ短縮シテ斜視ヲ致ス。

(五)筋麻痺。恐ラクハ神經焮衝。神經麻痺ニ由テ繼發スル者ナリ。

豫後

初期ニ識斷シ。治法宜シキヲ得レハ吉トス。若シ病ヒ轉歸症ニ變スルニ至テハ。其繼發症ノ凝體ノ輕重ト。急慢トニ應シテ吉凶ヲ定ムヘシ。

治法

防焮治法ノ総論ヲ撮テ。以テ之レヲ撰用スヘシ。

殊ニ肥厚ヲ防クニアリ、

眼科摘要巻三終

存誠林先生藏板

泰西醫方二十四脈表　一枚摺

侍醫法眼信良坪井先生譯
侃斯達篤氏內科書　全一百八巻

侍醫法眼信良坪井先生譯
新藥百品考　初編二冊　後編二冊　全四冊

大博士佐藤舜海先生譯
斯篤魯黙兒砲瘡論　全二冊

大博士佐藤舜海先生譯
外科醫法　內編十五冊　外編廿二冊　全三十七冊

越中佐渡三良先生著
和蘭藥性歌　全二冊

東京坪井芳洲先生譯
醫療新書　全三十冊

倉次元意先生譯
眼科摘要　全部九冊　近刻

時醫法眼松本先生藏板
解剖羅甸語簡多　骨部

山内氏藏板
西洋風顛入
漢字和譯附
英語可留多

洞海林健卿譯補
窊篤兒藥性論　全部十八冊

侍醫々學教頭蘭疇松本良順誌
隱士樂齋山内豊城挍閲補註
養生法　全二冊

玄端杉田先生譯
健全學　上中下　全部六冊

作樂戸痴鶯先生譯編
阿津孫四郎先生挍正
西洋英傑傳　全六冊

大學東挍恒太郎石黒先生譯
贋藥鑒法　全一冊

大學東校衡平桑田先生譯補
袖珍藥説 全三冊

大學東校恒太郎石黒先生譯
藥品溶解表 一枚摺

大学東校石黒先生譯述
官版 **化學訓蒙** 全十冊

大坂醫学校抱獨英氏
官版 **日講記聞** 冊數不定

大学東校
官版 **日講記聞** 冊數不定

大学東校田代先生譯述
切斷要法 全一冊

大學東校
官版御用所

東京馬喰町二丁目
英蘭堂　嶋村屋利助
西洋醫書
發兌書林